



自由の向こう側

記事内容は執筆者個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

# スクールソーシャルワーカーだより 58

## 自分らしさを取り戻す 離婚という選択

子どもにとって、親はなくてはならない、とても大事な存在ですし、家族は生きるすべてを担い、将来の自分を作る知識と経験を与えてくれるものです。

しかし、親は一生、子どものためを考えると、思い切ることが出来ず、束縛されて生きるものだ、とも言います。

☆

さて、憲法に、「両性の合意によってのみ」婚姻が成立するとあります。当然、合意が破られたら夫婦であることを終わる、離婚も可能です。

相談者に、夫婦関係の中で、いつの間にか自分らしさを失ったので、「自由になるための離婚」をしたけれど、結局、取り戻せなかった、と言う人たちがいました。

お聞きすると、ほとんどの方が「十分なお金や自分の時間がない。思いやりがもらえない。自分はある、これもしてあげているのに…」「憎みながら一緒に生活するか、別れるかの選択肢しか浮かばなくなった」と言われます。

離婚を考える十人中八、九人は、子どもの事を考えて夫婦であり続けます。しかしそれは、子どものためなのでしょうか。

離婚後どうなるか、未来予想はとても難しく、たとえ予想できても諸行無常、自分の思い通りにはなりません。それは法則です。

住む場所や経済的安定のため自分らしさを棄て、夫婦、親子の首かせに耐え忍ぶ事はお勧めしません。

反対に離婚せず、「得られない」不満ベースに生きることもお勧めしません。不満の上に築か

れた家庭の子どもは、そうでない家庭の子に比べて、間違いなく「こころの成長」に悪い影響が及ぶからです。

★

ここに、離婚に限らず、人間関係全般において安穩に暮らすための知恵があります。

物事の見方を変えなさい、相手から欲しいものがもらえない時は、自分が持っているものを与えなさい、という提案です。

イソップ物語の「北風と太陽」のたとえ話を思い出して下さい。

北風が持てる力を振り絞ってもマントは取れませんでした。

太陽は、自分の持っている暖かさを与え続けてマントを脱がせました。

持てる力を惜しみなく与え続ける親の姿は、子どもの「こころの成長」に必ずプラスの作用を及ぼします。

反対に、あれも、これも不足している事ばかりを口にする生き方は、マイナスの作用しか及ぼしません。

人間関係で悩んだ時は、是非、太陽を見上げて欲しいのです。

大事なものは「こころ」が病まない事です。そのために、我慢ではなく、見方を変えるのです。

